

広島大学病院

Hiroshima University Hospital News

No. 37
2016. 1

ニュース



「てんかんセンター」のスタッフ

- 新年のご挨拶
- てんかん診療拠点機関に
- ニュースアップ
広島大病院で災害医療救護訓練
肝臓移植後の感染症予防に新規治療法を承認
恒例のクリスマス会開催
- 栄養管理部情報
年末年始の胃腸はこうして休ませる
- お知らせ
院内がん登録
患者満足度調査へのご協力ありがとうございました
- 催しのご案内

ご自由にお持ち帰りください。



広島大学病院

広島大学病院ホームページ <http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/>



新年のご挨拶

病院長 平川 勝洋

皆様、明けましておめでとうございます。すがすがしい新年を迎えられたことと思います。平成27年4月、広島大学病院のかじ取りという大任を拝命し、副病院長はじめ執行部や各部署の皆様の御支援を頂戴し、何とか務めて参りました。昨年を振り返りますと、4月には、小児がんや難病の子どもさんの御家族の宿泊施設として広島大学病院ファミリーハウスが竣工し、5月から運営を開始しました。現在の利用率は30%程度ですが、比較的順調に運んでいると思います。利用料金はできるだけ御家族の負担にならない額にと設定しています。長期間の治療が必要な子どもさんや御家族の御苦勞が少しでも緩和される施設として重要な役割を果たしていると思います。快適な環境で長く利用していただくためには、十分な運営資金が必要です。建設の際には基金を設立し、たくさんの御寄付をいただきましたが、引き続き運営のための基金としてお受けしています。是非、多くの皆様にファミリーハウスに関心を持っていただき、一層の御協力をお願い申し上げます。

越智光夫学長も広島大学が掲げたスーパーグローバル大学化に向け、努力されています。文部科学省からは、スピード感をもった組織改革を要求されており、学長も様々な提案をされています。病院としては、質の高い臨床研究を支援する目的で改組した総合医療研究推進センター(旧 臨床研究部)を、より充実した組織にすべく検討を重ねています。センターの十分なサポートを受け、得られた成果を積極的に学外へ発信し、広島大学病院の使命である医療人の育成や、新しい医療の開発にも大きく貢献してもらいたいと期待しているところです。

昨年、当院は[てんかん診療拠点機関]に指定されました。高度な医療を展開できるように我々自身の医療技術の質の向上とともに、地域の「てんかん」医療の充実のために研修活動や診療ネットワークの構築が重要なミッションとなります。その他の診療科や部門においても同様で、病院全体が広島地域の医療のリーダー的役割を果たすことが課せられています。

重ねて今年も皆様の御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

病院のみならず皆様にとって、実り多い一年になることを願って新年のご挨拶といたします。

てんかん診療拠点機関に

広島大学病院は昨年11月、広島県知事から広島県における「てんかん診療拠点機関」に指定されました。てんかんセンターの飯田幸治センター長に聞きました。



飯田幸治センター長

① 「てんかん診療拠点機関」に指定された理由は

これまでの様々なてんかんに関する活動が認められたためと思います。私たちは、てんかんの臨床・研究活動のみならず、市民フォーラムや脳波・てんかんセミナーによる市民や医師への啓発活動、さらに国際協力・支援活動も行ってきました。こうした10年間の準備期間を経て2014年1月1日付で大学病院にてんかんセンターを開設していただきました。今後はさらに「てんかん診療拠点機関」として活動していくことになります。

② 病気の特徴並びに治療法は

てんかんは、約100人に1人、つまり日本に約100万人の患者さんがいる疾患です。脳の慢性疾患で、脳の神経細胞が異常に興奮することで、けいれんや意識消失など様々な症状(てんかん発作)を起こします。原因も様々です。遺伝がはっきりするのはむしろ稀で、10歳以下(特に3歳以下)の子供や70歳以上の高齢者で発症率が高いのですが、どの年齢層においても一定の割合で発症します。元気で仕事をしていた方が急にけいれんを起こして発症するということがあります。治療の原則は薬(抗てんかん薬)の内服です。最近では副作用が少ない新薬も相次いで保険適用となっています。薬をきちんと服用しても発作が止まらない場合には、手術という治療法もあります。発作の原因となっている脳の部分(てんかん焦点)を取り除く方法や、電気刺激によって発作を緩和させる新しい方法もあります。

③ 医療の現状は

てんかんは、手術を含めた包括診療を必要とする疾患であり、その診療にはさまざまな段階があります。地域のかかりつけ医(1次診療)から、専門医(2次診療)、地域診療において中核を担う3次診療施設(外科治療:てんかんセンター)の三者が連携した体制が重要であり、「てんかん診療ネットワーク」を構築することが必要とされています。患者さんは自分の病状に応じた診療レベルでの治療を受けることが望ましいのですが、現在の日本においては、これらのネットワークがうまく活用できていないばかりか、特に2次・3次診療を担う病院の数や質に不足があると言われてしています。

④ 拠点機関として今後の取り組みは

広島大学病院ではてんかんセンター開設後、広島県内のみならず、中国・四国地方における「てんかん診療ネットワーク」における3次診療についても担っています。今後は拠点機関として、従来行ってきた地域の1次・2次診療を行う医師の教育や、2次診療のレベルアップを図ることにより、てんかん診療の「質」の向上に引き続き取り組んでいきます。様々なてんかん診療活動を計画するために、てんかん診療拠点機関、行政、てんかん患者及びその家族、県医師会、教育委員会を構成員とする協議会を設置します。これまでの実績を踏まえ、患者さんが適切にてんかん診療を受けられるよう、てんかん学教育の充実と地域診療ネットワークの確立を目指すとともに、県民への普及・啓発を行ってまいります。

「てんかんセンター」お問合せ 月～金曜日 10時～16時 ☎082-257-1719

広島大病院で災害医療救護訓練

10月30日に「広島市五日市を震源とする震度6強の地震が発生し、多数傷病者の受入が必要」との想定で、医師、歯科医師、看護師、医療技術職員、事務職員、学生などおよそ250名が参加して、災害医療救護訓練を実施しました。

災害対策マニュアルに従い、災害対策本部、トリアージポスト及び治療エリアを設置し、多数傷病者の受入、初期治療を行うとともに、各外来、病棟等においては、地震発生時の初期対応の確認及び被害状況の把握、災害対策本部への報告を行うなど、充実した訓練となりました。

また、訓練終了後には多くの参加者から防災対策に関する課題や対応策について提案があるなど、病院職員の災害に対する意識の高さがうかがえました。

今後は、院外(地方自治体、周辺住民等)との連携を強化しつつ、防災対策の更なる充実に活かしていくこととしています。



1次トリアージで治療優先順位を判断



傷病状況などを確認する2次トリアージ

肝臓移植後の感染症予防に新規治療法を承認



記者会見の様様(2015年11月24日)


 会見する消化器・移植外科
大段教授(左) 大平助教

肝臓移植手術を受けると、拒絶反応を防ぐために免疫抑制剤を飲む必要があります。ところが免疫抑制剤は、体の抵抗力を下げってしまうため感染症にかかりやすくなります。肝臓移植で用いるドナー(提供者)の肝臓内には、がんやウイルスを攻撃する力の強いナチュラルキラー(NK)細胞がたくさん含まれています。

そこで今回、広島大学病院は移植手術後の感染症を予防する目的で、ドナーの肝臓から回収したNK細胞を3日間培養して活性化させた後、移植患者に点滴注射をして免疫力を高める治療法の臨床研究について、11月18日厚生労働省の承認を得ました。

本院では肝がん再発を防止する目的で、このNK細胞を用いた手術後の免疫力を高める療法を2006年1月から臨床応用しております。感染症予防を目的としたNK細胞を用いる療法の臨床応用は、国内で初めてです。

恒例のクリスマス会開催

12月14日夕、診療棟で29回目となるクリスマス会を開きました。会場のイベントホールには入院患者さんや家族、職員らおよそ250名が集い、一足早いクリスマス気分を味わっていました。

平川病院長が「楽しい時間を過ごして、明日からの病気との闘いに頑張ってください」と挨拶。院内のたんぼぼ保育園の園児32人のかわいい歌声に続き、院内学級で学んでいる小中学生が歌とトーンチャイムやリコーダー、ハンドベル演奏を披露しました。

続いて、広島市在住のビオラ奏者沖田孝司さんと妻でピアニストの千春さんが8回目の出演。軽妙なトークと「あわてんぼうのサンタクロース」「ホワイトクリスマス」などお馴染みの曲を演奏。最後は「上を向いて歩こう」をみんなで歌って、一時間余りの楽しいひと時を過ごしました。



たんぼぼ保育園の園児たちによる合唱



クリスマス気分を盛り上げた沖田ご夫妻

栄養管理部
情報

お正月つい食べ過ぎてしまったあなたへ

年末年始の胃腸は こうして休ませる



胃腸を休ませる食事のとり方

年末年始は特別な食事の機会が多くなり、昨日もたくさん食べて今日も食べ過ぎてなんだかずっとお腹が一杯。最近あまり空腹感を感じない。そんな方はいらっしゃいませんか？年始は少し胃腸を休ませる食事を心がけましょう。

☑ 1食に3つの“あ”を重ねない

アルコール



缶ビール(350ml)
178kcal

揚げ物



野菜かき揚げ(1個)
108kcal

甘い物



バニラアイス(120ml)
267kcal

アルコール、揚げ物、甘い物は高エネルギーのものが多いため、消化するのに時間がかかり胃腸に負担がかかります。

一度の食事 3つの“あ”を重ねないようにしましょう。

☑ 素材に近いものを選ぶ



えび1匹(20g)
19kcal



えび天ぷら(20g)
58kcal



エビチリ(1人前)
226kcal

同じ材料を使った料理でも調理方法によってエネルギー量は大きく違います。

揚げたり、炒めたりすると油を吸収して高エネルギーになり胃腸に負担がかかります。

同じ材料のものでもなるべく素材に近いものを選んで食べるようにしましょう。

まとめ 食事の時間前には、お腹がすいている状態をつくりましょう

注目! 栄養管理部って何をするとところ?

栄養管理部は、入院中の患者さんにとって楽しみの一つと言われているお食事を、“安全・安心して喜ばれる”をモットーに食事を提供しています。また生活習慣病を始めとして、様々な疾患の予防・回復のための栄養相談業務及び医療チームの一員として、食をとおして正しい知識や新しい情報をクリニックに提供する栄養ケア業務も行っています。

安心
安全



2016.1.1 元旦 朝食



担当した管理栄養士

栄養やお食事で
疑問などがありましたら
お気軽にご相談下さい。

病院からのお知らせ

院内がん登録 広島大学病院のがん診療の実績です

平成26年の広島大学病院のがん診療の実績を

広島大学病院がん治療センターのホームページで紹介しています

院内がん登録とは？

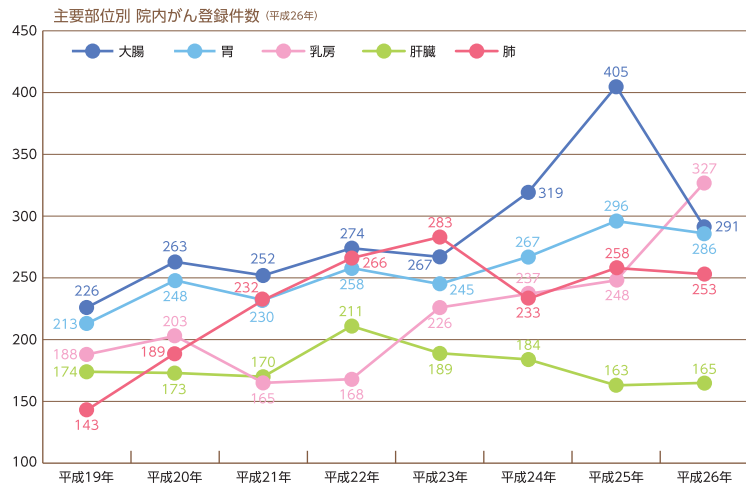
病院を受診された外来患者さん、入院患者さんをお問はず、全てのがんについて、診断・治療に関する情報を集め、整理・保管し、集計・解析をする仕組みで、がん患者さんとそのご家族に対して医療機関の選択を支援する為の情報です。

国立がん研究センターの研修を修了した、がん登録実務者が登録をしています。

広島大学病院がん治療センターHPアドレス <http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/cancer/>

広島大学病院 院内がん登録集計表

部位	登録件数	構成比%
口腔・咽頭	151	5.2%
食道	122	4.2%
胃	286	9.9%
大腸	291	10.0%
肝臓	165	5.7%
胆嚢・胆管	52	1.8%
膵臓	92	3.2%
喉頭	19	0.7%
肺	253	8.7%
骨・軟部組織	36	1.2%
皮膚	67	2.3%
乳房	327	11.3%
子宮頸部	90	3.1%
子宮体部	40	1.4%
卵巣	15	0.5%
前立腺	217	7.5%
腎・他の尿路	73	2.5%
膀胱	46	1.6%
脳・中枢神経	152	5.2%
甲状腺	57	2.0%
リンパ腫	150	5.2%
白血病	43	1.5%
多発性骨髄腫	36	1.2%
その他の造血器腫瘍	35	1.2%
その他	86	3.0%
合計	2,901	—



※がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式(2006年版修正版)に準拠 当該腫瘍初診日及び診断日:平成19年1月1日~平成26年12月31日
1腫瘍1登録 全部位(外来・入院全症例) 部位についてはICD-O3により分類

患者満足度調査へのご協力ありがとうございました

広島大学病院では、患者さん一人ひとりにとって、体にも心にも優しい医療の実現をめざしています。このため、昨年11月に、患者さんの生の声を聴きたいと患者満足度調査を行いました。

入院患者さん497名、外来患者さん698名の方から回答をいただきました。本当に多数の方にご協力いただきありがとうございました。今後回答を集計し、結果を踏まえて、より一層患者さんに満足していただける病院にしていきたいと思っております。



催しのご案内 (2016年1月~3月)

がん治療を支える
患者サロン

場所：臨床管理棟3階 3F2会議室

— がん治療を支える — がん治療と運動

1月21日(木) 13:30~14:30 講師：理学療法士 筆保 健一

大腸がんの基礎と治療

2月18日(木) 13:30~14:30 講師：消化器・代謝内科医師 田中 信治

— がん治療を支える — がん患者を支える家族のセルフケア

3月17日(木) 13:30~14:30 講師：がん看護専門看護師 石原 美紗子

患者・家族が同じ目線で
がん患者
おしゃべり会

1月26日(火) 13:30~14:30

2月23日(火) 13:30~14:30

3月29日(火) 13:30~14:30

場所：診療棟2階 健康情報プラザ

いずれも問い合わせは：
がん相談支援センター ☎082-257-1525